

令和元年度 江陵高等学校 学校評価

建学の精神	教育の機会をここに開拓し、創造性、自主性をもって行動思索し、個人の能力が十分に伸長しうる学舎であることを創設の精神とする。
-------	---

重点目標	人間性豊かな個性の伸長と創意工夫に富む教育活動の推進に努める。 ○ 生きた学力と実践力を身につけさせる。 ○ 自己を確立し共に歩む心を育てる。
------	---

各学科の概要	〈福祉科〉 ● 高齢化社会に不可欠な介護の専門家を養成する学科 ● 福祉専門科目を学び、各種の実習授業やボランティア活動を展開しながら 体験的に学び、各種資格・検定取得を通じて幅広い知識を習得させる。 ● 3年間で「介護福祉士国家試験」受験資格が取得できる。 ● 卒業後の進路は、主に福祉関係に就職。他に大学・短大・看護学校への進学実績がある。 〈普通科〉 ○ 進学・就職を目指す幅広い学科 ○ 3年間で『英語検定』『漢字検定』『危険物取扱者』『商業簿記検定』『文書処理検定』『普通救急救命講習修了証』など、様々な進路に対するために各種検定・資格が取得できる。 ○ 進学希望者は、進学講座や進学模試を受け、数多くの大学進学の実績がある。
--------	--

令和元年度の取組み

学校自己点検・評価シート等で取り組んだ結果を年度末に評価・達成状況を確認する。 評価の低い項目については次年度に向けて改善の方策を検討する。			
評価項目	取り組み目標	取組み内容	達成状況・反省・
教育活動	自主的かつ主体的に取り組む環境の充実	福祉科・普通科とも部活動の加入率も高く、学習意欲の高い生徒も多い状況からホームルーム・授業・部活動を通じて学習・進路に対しての意識を高める。	意欲的な生徒の割合が増えている反面、指導に苦慮することも若干あった。積極的にボランティア活動参加や日常のゴミ拾い等を通して地域から評価を受けた。部活動では1年間活発な活動を継続し戦績面も全体を通して評価できる結果であった。進路・学習面は目的意識が高い生徒が多く、進路指導の様々な取り組みによって生徒自ら自分の進路に対して積極的に考えて取り組むことができた。 <p style="text-align: right;">【 A 】</p>

	確かな学力の定着及び生きる力の育成に向けた取り組み	授業・家庭学習・定期試験・模擬試験等を充実させ、進学・就職・国家試験（介護福祉士）等の対応に努める。また、規範意識・道徳心を育てると共に、生徒の生きる力を育成する。このためには教員間の連携や家庭との連携を図り、学力の向上と生きる力の伸長をさせる。	教員集団が生徒のことを第一に考え授業・部の活性化に向けて団結してくれた。 基礎学力テスト・公務員模試・就職模試・医療看護模試・福祉科施設説明会・生徒対象進路ガイダンス・三年生父母対象進学説明会などの実施により保護者・生徒への意識付けもある程度は浸透させることができた。また介護福祉士国家試験の合格率 100%を達成するなど指導の結果がでたとともに合格・内定率が高まった。 【 A 】
	生徒による授業評価結果に基づく授業改善（年度末実施）	校内研修などを通して、教育力の向上を図り、確かな知識・学力の定着を図る。日頃から各教科で十分に教材研究の準備等をして授業力の向上に繋げる。	教育の向上を図り、確かな知識・学力の定着を図ってきた。各教科とも準備・工夫を十分に行い着実に授業力の向上につながっている。学習意欲の低い生徒をいかに底上げしていくかが今後の課題として残されている。 【 A 】
学校生活への配慮	学校生活	基本的な生活習慣（欠席・遅刻）・問題行動等に対する指導を適切に家庭とも連携を取りながら行う。また、部活動の中でも人間形成を向上させる。勝利第一主義的な指導はさげ、体罰・暴言による不適切な指導はしない・させない。	数件の問題行為が発生したが、その都度適切な対応を行い再発防止に努めた。部活動や学校生活のことで保護者から改善を求められる場面があり、日頃から保護者と学校とのやり取りを綿密にしてしっかりとコミュニケーションを行う必要性を痛感した。 【 B 】
	生徒に合わせた指導	生徒の環境の多様化にマッチした指導と家庭との連携を図る。そのためには担任・学年団・各分掌・保健室・部顧問等が情報交換を常に行い、素早い対応と問題行為等の防止への取り組みを継続して行う。	人間関係のからくる諸問題でクラスに入ることが出来ない生徒が若干いたが、サポート教室などを活用し問題解決に努めた。また、長年患っていた学習障害が表面化し、専門医や担任・学年と協力しながら対応してきたが、医師の指導と本人・保護者の希望により進路変更を行った。今後課題となる事例であると捉えている。 【 B 】

	いじめ・体罰防止のための取り組み	いじめに関して、定期的に生徒・保護者・教員のアンケートの実施を行い防止に努める。教員間で情報の共有と情報交換を日常的に行い防止に努め疑いのある事案については早期解決に向けて素早く対応する。	サポート教室を活用し、担任や学年が協力しし改善に至る。また、近年SNSにおける書き込み等から来るいじめの問題も表面化しており、正しいSNS使用の指導方法も模索している。今後の大きな課題として考える。 【 B 】
課外活動	生徒会活動の充実	各種学校行事において、生徒が主体的、自主的に活動できる環境作りと指導	生徒会が自主的に学校祭・球技大会等の計画立案を遂行した。特に学校祭行灯パレード等は多くの町民から注目され評価されている。また、町議会の学校公開講座の実施で高校生から見た町政についての意見も述べる事ができた。 【 A 】
	部活動の意義	スポーツ・文化を通じて基本的な生活習慣と礼節を学ぶことにより他人に対する思いやりや縦の繋がり（上下関係）・横の繋がり（同級生・友達）との人間関係をバランスよく身につけること。また、部の活動を通して授業の大切さと自分の将来について深く考えさせる。	挨拶・礼儀等は来校された方や住民の方々からお褒めの言葉を多く頂いた。また、統合整備に伴う公立高校との合同活動は懸念された問題もなく両校の部員たちが仲良く活動していたことは評価できる。一方、問題を抱えている生徒が部員であることがあり、当初の志に反して部活動を離れる生徒も数名いたのは今後の指導における課題である。 【 B 】
	部活動の活性化	自ら進んで練習等に励んで、勝つことの喜びや負けたことに対する反省や挫折をばねにして、前向きに行動の取れる人格を養う。生徒が理解できるように辛抱強く時間をかけて指導をする。 体罰のない指導を行う。教職員が理解しながら生徒に関わる必要がある。（アンガー・マネジメント）	例年、運動系・文化系ともに多くの部が北海道大会に出場を果たしている。更に、北海道大会でもバドミントン・陸上は上位に進出し、書道部においては全国大会に出場を果たしている。 いくつかの部は同居する公立高校との合同チームとして大会出場も果たしている。 体罰のアンケートを分析したが、該当する案件はほとんど認められなかった。 【 A 】

進路指導	基本方針	生徒の個々人の能力に応じた生徒自ら自主的に進路を選択して、目標の実現に向けて計画的・組織的な進路指導を行う。	模擬試験・進路ガイダンス・説明会など計画に基づいて実施することが出来た。次年度についても是非に実施を継続する。 【 A 】
	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① HR活動などを通じて進路の目標を早期に決定させ、意識をもって学校生活を過ごさせるようにする。 ② 家庭と担任と連絡を密にして情報を共有し、スムーズな進路決定を目指す。 ③ 進路通信などを通じて生徒や職員に随時情報を発信する。 ④ 教務部・生徒指導部・広報部とも連携し、全体の関わりによって適切な指導を行う。 ⑤ 幅広い選択肢を設けられるよう企業・施設・進学先の学校との繋がりを維持しつつ新規開拓にも努める。 ⑥ 国公立大学・看護系希望者を発掘・育成・探求し、昨年度に引き続き合格者が出るよう取り組む。 ⑦ 進路設計意欲を高めるために、個別指導を強化し、適切な指導・助言に努める。 	<p>3年生は春休み中に三者面談を行い進路の方向性を見出していくことができた。就職試験や入試の対策として複数の先生方で面接指導を実施し回数も増やすことで万全の体制を整えた。進路指導部と学年団との連携で全体的に的確な進路指導ができた。進学で推薦試験の前段で就職に変更した例もあった。承諾書を提出させているが今後は十分に理解をさせていくこと必要である。</p> <p>2年生は年3回の進路ガイダンスや進路情報を受け取る機会を増やし、進路指導部が中心になり個別の面談を行いながら早期の進路実現に対する意識啓発を行ってきた。 【 A 】</p>

保健衛生	教育相談体制の充実	相談室内の環境の改善を行う。また、担任・保健室・生活指導部との連携を強化し、複数教員でのサポートを行う。生徒の悩み（人関係・部等の悩み・家庭の悩みなど）情報収集によって早期解決を目指す。	生徒は養護の先生に自分の悩み（クラスの人間関係・異性・家庭等）を相談していることが多い。わがままな相談も時にはあるが、問題を抱えた生徒の多くは保健室で養護の先生に助けの信号を送り、この情報から適切な対応が行え救われた生徒もいた。生徒の発しているサインを逃がさず察知して学年団・家庭と連携して問題解決に向けていかなければならない。 【 A 】
	性に対する指導 命の大切さを考えさせる	HR・教科等で性のあり方について理解させ教員間での指導方針での共通理解を図る。 様々な機会を通じて命の大切さを学ばせる。	性の教育において生徒自身が正しい知識と考え方を持つことは大切であり、今後も必要性があると考え。子どもの自殺・自傷行為・いじめなどの問題が社会問題として取り上げられている現在において、この諸問題について、日頃から我々教員が生徒に投げかけ考えさせることか必要ある。 【 A 】
広 報	中学校に対する 広報活動 生徒募集活動	① 学校通信（福祉科・普通科） ② 「願いはかなう」卒業生の進路報告の刊行物を出身中学校に配布する 平成31年度生徒募集停止に伴い終了した。	年2回の学校通信を発行し中学校に配布し、本校の生徒の活動や部活動での実績を伝えることが出来た。また、「願いはかなう」の刊行物で、出身中学校向けに配布し、本校卒業後の進路を報告した。 体験入学は平成31年度生徒募集停止に伴い終了した。 【 A 】

※【A：達成できた， B：大体達成できた， C：あまり達成できなかった， D：達成できなかった】